



自衛隊栃木地方協力本部

新入隊員、地域事務所を訪問 ～担当広報官との絆を深める～

6月14日(水)、自衛隊栃木地方協力本部小山地域事務所(所長 宅原 2 陸尉)に、陸上自衛隊武山駐屯地へ令和5年3月に教育入隊した尾花 啓斗 2 等陸士及び中山 龍翔 2 等陸士が訪れた。二人は現在、第20期一般陸曹候補生課程に教育入隊中であるが休暇を利用して小山地域事務所を訪れ、担当広報官へお世話になったお礼と教育隊での様子について報告してくれた。

二人は担当広報官の金子准陸尉に、教育隊での訓練や同期との営内生活について「学科試験の勉強や訓練は大変だけど、同期との営内生活がとても楽しく、毎日充実しています」また、職種は二人とも普通科を希望し、希望任地は尾花2士が練馬駐屯地、中山2士は北方を希望している」と明るく話してくれた。成長した二人の姿を見た金子准陸尉は「我が子の成長を目の当たりにした親のような気持ちです」と、とても喜んでいました。

小山地域事務所は「今後も入隊後の隊員と連携を密にし、隊員、学校との信頼関係及び協力関係を強化し、募集基盤の拡充に邁進していく」としている。



事務所訪問 右側 尾花2士、左側 中山2士



担当広報官との面談
手前：中山2士、奥：尾花2士

阿久津中学校で「職業人に聞く」に参加 ～地域に学び、自分を拓く～

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所(所長 高井 1 尉)は、6月22日(木)、高根沢町立阿久津中学校において行われた、講座「職業人に聞く」に担当広報官の平井 1 空曹が講師として参加した。「職業人に聞く」は、同中学校が総合的な学習の時間の一環として「地域に学び、自分を拓く」をテーマに、様々な分野の職業の経験談等を聞き、生徒たちに正しい職業観や勤労観を身につけさせ、今後の生活や進路に役立てるために毎年行っている授業である。

当日は、消防士、警察官、農業、販売、製造業、新聞記者等の約22の職業関係者が参加し、自衛官の講座では、1年生から3年生の42の生徒たちに、自衛隊の仕事、隊員の生活、経験談等を話すと、参加者は興味深く聞き入っていた。特に、海上自衛隊が南極観測船「しらせ」で持ち帰ってきた「南極の氷」を展示した際、生徒たちは「なぜ南極?と自衛隊?と質問の聲が上がり、南極の氷の神秘さに触れるとともに自衛隊の様々な任務について、驚いた模様を見せていた。



迷彩服の体験試着をして南極の氷に触れる参加者たち



南極の氷に耳を近づけ、氷の音を聞く参加者



「職業人に聞く」の様子
熱く語る平井 1 空曹